

【植物ニュース】 174. ナタネタビラコ

*Lapsana communis*

1991年7月24日、松本市東部の美ヶ原林道を歩いていて海拔1350m辺の道端に葉はアブラナ科のアブラナのように、花は黄色でキク科のオニタビラコのような頭花をもった2本の草本が目についた。

帰化植物とみて、長田博士の「日本帰化植物図鑑」で調べ、*Lapsana communis* ナタネタビラコとわかった。この和名もアブラナ科とキク科を組み合わせたような花である。欧亜大陸原産で1959年に神奈川県で採られたが帰化例は少ないという。

来年の状態を楽しみにして翌年の同じ頃再び現地を訪れたところ、その辺では全然見ることが出来なかった。帰化植物は一般に強勢で一度土着すると、たちまち分布を広げるものが多いが、中にはこのように消え去るものもあって、長田博士の帰化例が少ないという記事が理解できる。(奥原弘人)

【植物ニュース】 175. メルケンカルカヤ

*Andropogon virginicus*

昨(1992)年12月初、梓川村在住の逸見泰明氏が、この草は「信州の珍しい植物」に出ているものと同じではないかと持参されたのは本曾で見ているメリケンカルカヤであった。驚いて自生地へ案内していただいた所は梓川左岸の梓川村の河原で梓川橋の少し上流に茎を立てているもの30株ほどと、まだ茎を立てないものが3㎡に群生しているのが見られた。その後梓川橋の下流でも多数見ることが出来たとの連絡があった。

メルケンカルカヤ *Andropogon virginicus* は長田博士によれば北米原産で戦後名古屋市を中心として広がり、その後東西に広がっているため将来全国的に雑草化するおそれがあるという。

県下で気付いたのは山口村の神坂でのこと

で、数年前休耕田に群生し付近の草地や道端でも見られた。その後注意してみると大桑村と伊那谷でも飯田市南部でも見ることが出来た。

今回松本盆地でも見つかったわけであるが、これらの中間ではどうなっているであろうか。今後梓川村以北への広がりにも注目したい。(奥原弘人)

【新刊紹介】日本植物分類学会編著「レッドデータブック ー日本の絶滅危惧植物ー」A4判、141頁、1993年刊。3500円、農村文化社。

自然保護が叫ばれ、また潜在遺伝子資源としての野生植物の大切さが認識されてきているが、しかしこの間にも安易な森林伐採や埋立、宅地の開発、そして乱獲により、日本列島の貴重な野生植物が少しずつ失われている。このような状況を憂え、野生植物のたいせつさをより多くの方に理解していただくために編纂されたのが本書である。

この本では、日本列島のなかで現在絶滅の危険にさらされている植物895種(これは日本産シダ植物と種子植物の約17%に相当する)がリストアップされ、それらが今どのような状況にあるのか、絶滅の危険を招いている原因はどこにあるのか、各県ごとの分布状況はどうなっているか、などわかりやすく表にまとめられている。また、それらの中の約240種についてはカラー写真入りで現況が詳しく説明されている。かつてごく身近にみられた雑草が今このようなリストに掲げられているのを見るとあらためて自然環境の変化に驚かされてしまう。やはりさびしい限りである。野生植物をとりまく日本列島の現状の理解と身近な雑草を再認識するうえでも良い書と思われる。(T.S.)